

平成21年度 三玉小学校学校版環境ISO

「**み**・**た**・**ま**プロジェクト」で進める『1から0への挑戦!』

【取組のポイント】

- ① 三玉小で共通理解を図っている「授業づくり」「日常活動の充実」「家庭・地域との連携」という3つの視点から本校の教育活動を見直した。その上で、具体的実践を検討していく「**み**・**た**・**ま**プロジェクト」に基づいて、学校版環境ISOの内容を検討し、具体的実践とその行動目標に対する評価を行う。
- ② 学校と家庭・地域とが連携を図り、「ふるさと三玉」の環境を守るために実践できることを検討し、実践することを通して、学校版環境ISOの浸透と啓発を図る。

はじめに

本校は、山鹿市の中央部に位置し、美しい自然景観を今にとどめている。特に日の岡山に突き出した不動岩は有名であり、「不動と権現」の綱引きの民話は、今も語り継がれている。また、熊本県の名水百選にも選ばれた一ツ目水源を有し、ホテルの舞う里としても知られている。さらに歴史的遺産も多く、江戸時代に造られた湯ノ口溜池は県内最大の灌漑用貯水池であり、現在も地域の田畑に水を供給し続けている。

地域の自然や歴史遺産については校歌にも取り上げられ、その美しさや厳しさ、優しさを本校児童に伝えている。



1 学校版環境ISOの実施に関する基本的な考え方、取組の組織図

【基本的な考え方】

昨年度からの取組により、徐々に児童の環境に対する意識は向上してきた。本年度は、より具体的な行動力を身に付けることを目標とし、それぞれの**1つの行動から無駄をなくす取組(0への挑戦)**を検討し、宣言→行動→記録→見直しのサイクルを意識させながらふるさとの環境を守る児童をはぐくんでいく実践力へとつながる取組を実践する。

【組織図】

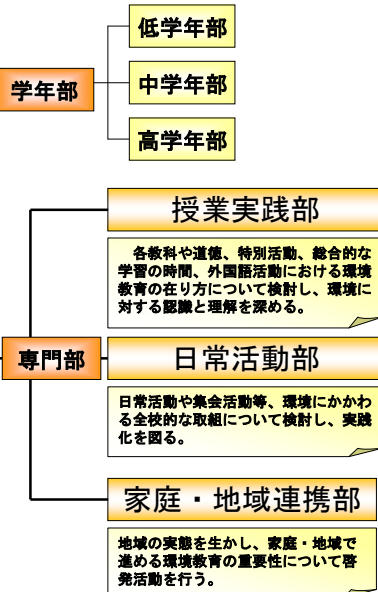


【環境教育推進協議会の様子】

校長 — 教頭 — 研究推進委員会

三玉小校区環境教育推進協議会

地域の様々な機関・団体等の人材から幅広く組織を構成し、三玉校区で環境教育を進めるにあたり、学校の研究に対するアドバイスや地域での活動をサポートする。



学校版環境ISOにかかわる活動の実践



【学校を大切にする活動】



【グリーンカーテンづくり】



【地区での清掃活動の様子】

2 取組の実際

(1) 宣言

児童の宣言項目

- 自分の持ち物を大切にします
- 節電、節水、裏紙の利用に心がけます
- 自分たちの学校や校区をきれいにします

職員の宣言項目

- ゴミの分別収集を徹底します
- 省エネルギーに努めます
- 環境学習の視点を意識した授業を行います

家庭の宣言項目

- 資源を有効に使い、ゴミを減らします
- エネルギー・水の無駄遣いを減らします
- 環境にやさしいまちづくりをします

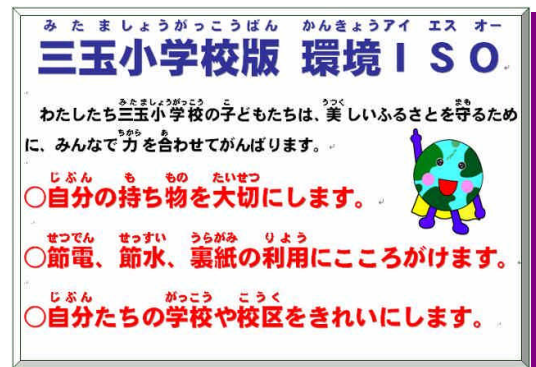


環境美化委員会が、学校版環境 I S O の内容について、全児童に説明した。

昨年度、これまでの宣言項目を環境美化委員会が中心となって見直し、日常成果の中でより具体化しやすい3つの項目を絞り込んで実践してきた。

本年度は、昨年度の流れを踏襲しながらも、さらに宣言項目の1つ1つに実践内容を示すという形で継続していくこととなり、5月のエコ集会で環境美化委員会が紹介した。

また本年度は、家庭での宣言項目も設定し、保護者にも協力を求めていった。この宣言項目を家庭版環境 I S O にもつなげていくことにした。



【校内に掲示した「三玉小学校版環境 I S O」】

【児童の宣言項目に対する具体的実践事項】

三玉小学校版環境 I S O	具体的な実践内容
【宣言①】 自分の持ち物を大切にします。	○落とし物 0 運動（毎週 1 回記名点検） ○くつ箱の点検
【宣言②】 節電、節水、裏紙の利用に心がけます。	○エコタイム（給食から掃除時間までの消灯） ○コップ 1 杯歯みがき運動 ○裏紙利用コーナーの設置
【宣言③】 自分たちの学校や校区をきれいにします。	○無言掃除の奨励 ○ゴミ拾いタイム（給食後 3 分間ゴミ拾い） ○ゴミ拾い登校（毎週水曜日）

(2) 行動

①宣言項目に対する具体的な取組



「わたしのエコ宣言」

学校版環境 I S O を基に、自分で継続して取り組む実践内容を 1 つ決めて取り組む。



「落とし物 0 作戦」

課題であった落とし物を 0 にするために、持ち物すべてに記名し、週 1 回点検している。



「エコタイムの実践」

給食から掃除終了までの時間を「エコタイム」と呼び、無駄な電気を消している。



「コップ1杯歯みがき運動」
 学給食後の歯みがきを、コップ一杯の水で行う取組を全学年で続けている。



「裏紙利用コーナー設置」
 漢字の書き取りや計算用のプリントには、積極的に裏紙を利用し、1枚の紙を大切にしている。



「ゴミ拾いタイム」
 給食終了後の3分間を「ゴミ拾いタイム」とし、教室を美しく大切にする取組を行っている。

②委員会活動による具体的な取組

児童がより主体的に身近な環境へと働きかけていくために、児童会を中心とした活動を見直し、活性化してきた。委員会を単位として、特色を生かした活動を計画し、実践している。

主な委員会	学校版環境ISOにかかわる活動
環境美化委員会	環境チェック 地域のゴミ拾い ゴミ拾いタイムの呼びかけ
生活・安全委員会	くつならべ調べ、あいさつ運動
放送委員会	エコエコタイムの呼びかけ（給食からそうじまでの消灯）
保健委員会	環境ホルダーづくり
栽培委員会	学校園やプランターの花の世話
運営委員会	エコ集会の計画と運営



【地域のゴミ拾い（環境）】



【ゴミ拾い登校（環境）】



【花いっぱい運動（栽培）】



【くつならべ点検（生活）】



【エコタイム呼びかけ（放送）】



【EM石鹸作り（保健）】



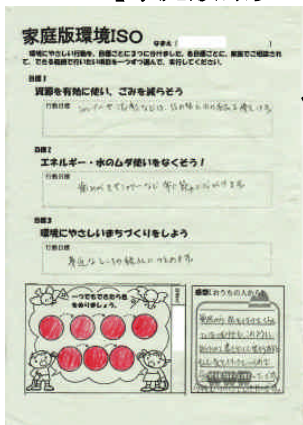
【ペーパーホルダー作り（保健）】



【エコ集会での呼びかけ（運営）】

③家庭・地域と一体となった取組

【家庭版環境ISOの取組】



家庭版環境ISOの宣言項目に対して家庭ごとに具体的な取組を検討し、期間を決めて実践及び評価をしている。

【資源ゴミ回収活動への参加】



地区で行われている資源ゴミ回収に児童も参加し、共に分別活動を行うことで、地域の環境を大切にする態度を育てている。

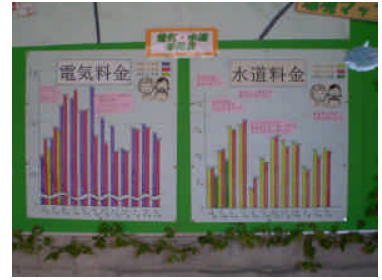
(3) 記録

全校児童の環境への意識を高め、継続した実践へとつなげていくために、実践の様子を紹介する「環境ロード」を設置している。

宣言項目の電気や水の使用量についてはグラフ化し、児童のがんばりがより見えるように掲示を工夫している。



【環境ロードに掲示した活動記録】



【電気代・水道代の推移グラフの掲示】

(4) 見直し

本校では、毎月5のつく日を『いい5の日(エコの日)』と設定し、児童一人一人が、宣言内容を基に自分の生活を振り返る日としている。学校版環境ISOに基づいて日常生活を振り返るための評価内容を示し、「エコチェックカード」に自己評価し、できた項目にはシールを貼るようにした。評価項目は、次の通りである。

赤・・・気付いたときに電気を消す またはすすんでごみを5個拾う
青・・・コップ1ぱいで歯みがきをする
緑・・・一人一鉢に水をあげる
黄・・・給食を残さず食べる
白・・・ノートの字をていねいに書く

【エコ宣言への評価】

【エコチェックカード】

3 成果と課題

【宣言項目に対する取組の成果として】

「自分にできる1つのこと」にこだわって取組を実践したことで、児童1人1人が意欲的に活動に参加するようになった。また、シールを使った自己評価はたいへん効果的であり、楽しみながら活動を継続できた。

【委員会活動による取組の成果として】

各委員会で「環境にかかわる1つの取組」を話し合い、実践化へとつなげたことで、児童の自治的活動が活発になり、活動の活性化へとつながった。さらに、活動の幅を広げようとする意識にもつながっている。

【家庭・地域が一体となった取組の成果として】

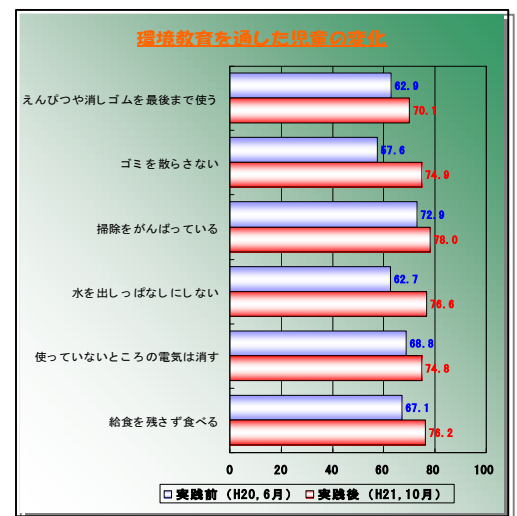
推進協議会を中心として地域へ環境活動の呼びかけを行ったことで、「地域の子どもは地域で育てる」という気運が高まり、地域全体の環境に対する認識が高まった。

【取組全体に対する総括として】

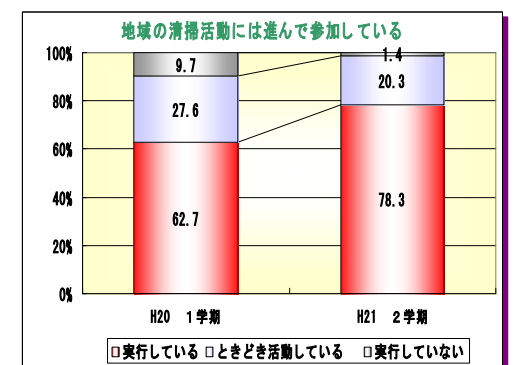
宣言項目に対して具体的な目標を設定したことで、児童及び家庭・地域の方々の意識は、確実に向上してきた。それぞれが自らできる1つのことからスタートしたので、無理なく継続して進めるきっかけとなった。

<今後の課題>

- より効果的な自己評価・相互評価の方法検討
- 宣言内容の見直しとそれともなう活動の焦点化



【児童意識調査 (H20, 6 と H21, 10 比較)】



【保護者の環境行動調査 (H20, 6 と H21, 10 比較)】